



今月は「イエメン」を覚えてお祈りください

イエメンは、中東のアラビア半島南端部に位置する共和制国家である。ただし、インド洋上の島々の一部も領有している。首都はサナア。

イエメンの経済・政治・宗教について

イエメンはここ数十年、3度の内戦、部族紛争、戦争に苦しんできた。現在のイエメンは政治的には、穏健なシーア派の反政府勢力と、元大統領を支持するスンニ派勢力の間で分かれている。アルカイダやISISのような過激派イスラム組織は、イエメンやその他の地域を支配し、これらの地には混乱がもたらされてしまっている。サウジアラビア、米国、イランなどは、イエメンを自分たちの代理戦争の劇場として使用してきた。また、米国や英国を含む西側政府は同盟国に武器の資源を提供しており、無差別的な被害がもたらされている武器を販売され続けている。その結果、学校、病院、刑務所の人々を含む多くの民間人が爆撃で死亡している。激しい戦の結果、人口の多くは近年、食糧不足や飢餓に直面している。

このような苦しみや恐怖の中、イエメンではラジオ伝道や聖書の配布が行われている。勇敢な証人たちが主からの夢とビジョンを受け取っており、キリストに出会う人々が起こされ続けている。国の正式な宗教はイスラム教であり、法律もイスラムの教えに準じている。イエメンのイスラム教は保守的であり、信教の自由はほとんどないが、移住者にはイスラムへの改宗は命じられてない。そのような中、キリスト信者たちは密かに小さなグループで集まっている。彼らはしばしば危険や迫害に直面しているが、主に忠実に仕えながら、彼らの社会や家族に福音を伝えている。

イエメンのその他の情報

面積:531,869 km² (日本の約 1.4 倍) 人口:30,490,639 (日本の約 24% 2020 年時点)



首都「サナア」



カートを噛む男性



イエメンの子どもたち

宗教:	
イスラム教	99.92%
キリスト教	0.08%

「らくだの大群、ミデヤンとエファの若いらくだが、あなたのところに押し寄せる。これらシエバから来るものはみな、金と乳香を携えて来て、主の奇しいみわざを宣べ伝える。」
イザヤ 60:6

祈禱課題

イエメンの未伝部族や民族を覚えて

世界で最も福音が届けられていない国の一つである。人口増加が著しいこの国にはイエスにある救いを必要としている人々が多くいる。特に下記のような人々が未伝とされている。

北に住む部族—首都のサナアに住む人々や北と北東の山脈に住む民族たち。多くが遊牧民だ。

南イエメンの人々—アデン、タイズ、イブといった町々に住む人々。

ティハマ・アラブ人—海岸沿いの平地に住んでいる。湾岸戦争から生き延びた人々がこの地域に定住している。主要な町はホデイダ。

ハドラマウトの人々—シバムやタレムといった歴史的な町、そして港町であるムカラに住んでいる。

マリ族—オマーンとの国境付近で暮らしている漁師民族。近代的な生活から離れている。

ソコトラ島民—17世紀までこの島には多くのクリスチャンがいた。しかし今ではクリスチャンはいない。本土から孤立しており、人道支援の働きをするのが難しい場所だ。

イエメン女性—一家から出て学び仕事をするのが難しい文化に暮らす女性たちに、どのようにイエス様のために生きていくことを伝えればよいのか。知恵が必要だ。

子どもたち—人口増加は子どもたちの多さを証明している。イエメンの一般家庭は貧しく、子どもたちは保護者からの十分な干渉や教育を受けずに育っていく。イスラム教ではお酒が禁じられているが、お酒の代わりに「カート」という葉っぱを噛む人が多い。カートを噛む習慣を持っている両親の下に生まれる子供は特に十分な監督を受けないまま育つ傾向がある。就学は限られた子どもしか受けられず、イスラム教の支配が強い。子どもの誘拐が組織的に行われている。

南アジア人—アデンという町で商売をしている。多くがイスラム教徒だが、ヒンズーやカトリッククリスチャンもいる。また 300 人ほどのユダヤ人イエメン人もいる。

ソマリア人—イエメンに移住したソマリア難民は 50 万人もいるとされている。少数のクリスチャンがいるがほぼ未伝である。